ひきこもり状態にある人と家族への支援

関連するSDGsの国際目標





人間看護学部　人間看護学科　　講師　　川口　恭子

研究分野：公衆衛生看護学、保健師活動
ひきこもり、家族支援

「ひきこもり」の課題については、以前は青年期に焦点をあてた対策が取られていましたが、最近では、ひきこもりの状態にある人の高年齢化や長期化，それに伴う親の高齢化，経済状況の困難化などの課題があることが報告されています。

長期化による二次的影響を防ぎ支援を効果的に行うためにも、早期の相談が望まれます。そのため、適切な時期に相談に至るための支援方法を研究しています。

■　家族からの相談に関する研究

相談については、ひきこもりという特性から、本人からの相談よりも家族からの相談が多いという傾向があります。家族へのインタビュー調査を通して、家族がどのような経験をして相談に至っているかを研究し、よりよい支援の方法について模索しています。

■　相談しやすい環境づくりについて

支援を行う際は、本人や家族等からの相談を受けて開始されることがほとんどです。適切な時期に相談につながることで、より効果の高い支援を得ることができます。ひきこもり状態にある人が適切な時期に適切な相談機関につながることができる環境づくりが必要だと考えています。